

福岡県の淡水魚 たん すい ぎょ ~魚を使った環境しらべ~

福岡県の川には様々な魚がくらしています。どのような魚がいるかを調べることで、その川の環境の状態を知ることができます。この表を用いて、川の環境の豊かさを調べてみましょう。

調査方法

1. 場所を選ぶ

魚は岸辺の植物の中や、瀬の石の下、砂の中などに隠れているので、できるだけ色々な環境がある場所を選びます。流れがはやいところや、深いところは危ないのでさげましょう。

2. 魚をつかまえる

魚が潜んでいそうな岸辺の植物や瀬の石の下流側にタモ網を構え、植物を足でけったり、石を動かしたりして、隠れている魚を上流側からタモ網に追い込みます。砂の中や落ち葉の中なども探してみましょう。

3. 名前を調べて記録する

採集した魚は下敷きを参考にして種類を調べます。名前がわかったら、下の記録表に○を記入しましょう。また、採れた魚は観察が終わったら、元いた場所に放してあげましょう。

4. 環境の豊かさを判定する

採れた魚の種類数(○の数)を記入し、つぎに○をつけた魚の点数を合計し、合計点数を種類数でわって平均点数を計算します。平均点数が高いほど魚にとって良い環境ですが、大まかな目安としては下の値を参考にして下さい。

スコア記入

観察日 年 月 日 名前:

調査地点1:河川名 (地点名:)

調査地点2:河川名 (地点名:)

平均点数が
3.0以上だったら (I) とても豊かな自然が残る環境
2.5-2.9だったら (II) 豊かな自然が残る環境
2.0-2.4だったら (III) 自然が失われつつある環境
1.9以下だったら (IV) 自然がかなり失われた環境

さかなの名前	点数	地点1	地点2	さかなの名前	点数	地点1	地点2
オイカワ	2			インドジョウ	5		
カワムツ	2			ヤマトシマドジョウ	4		
ヌマムツ	4			スジシマドジョウ類	5		
タカハヤ	3			ドジョウ	4		
ハス	1			ナマズ	3		
カワバタモロコ	5			アカザ	5		
ヒナモロコ	5			アリアケギバチ	5		
ヤリタナゴ	4			ギギ	5		
アブラボテ	4			オヤニラミ	5		
カネヒラ	4			オオクチバス	1		
セボシタビラ	5			ブルーギル	1		
ニッポンバラタナゴ	4			カムルチー	1		
カゼトゲタナゴ	5			ドンコ	2		
ムギツク	4			ヨシノボリ類	3		
モツゴ	2			ミナミメダカ	3		
イトモロコ	3			カダヤシ	1		
カワヒガイ	4			ニホンウナギ	4		
カマツカ	3			ヤマメ	4		
ゼゼラ	3			カジカ	5		
ツチフキ	4			スナヤツメ	5		
ギンブナ	2			種類数			
コイ	1			合計点数			
ゲンゴロウブナ	1			平均点数			

よく似た魚の区別方法

泳いでくらす魚

オイカワ

背びれは体の真ん中



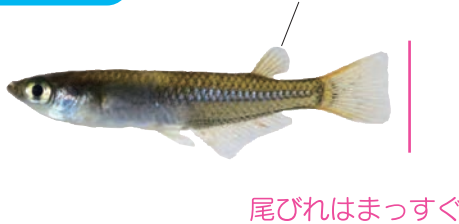
カワムツ

背びれは体の真ん中



メダカ

背びれは体の後ろ



カダヤシ

背びれは体のやや後ろ



ハヤの仲間（オイカワ、カワムツなど）の赤ちゃんとメダカは一見すると似ていますが、背びれの位置が大きく異なります。また、メダカとカダヤシは尾びれの先端の形で見分けることができます。

川底でくらす魚

ドンコ

背びれは2つ



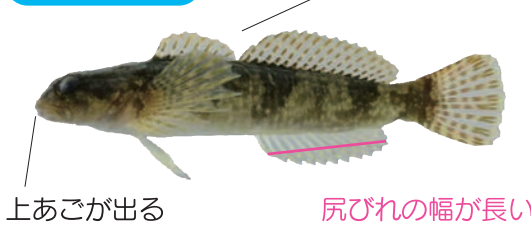
ヨシノボリ類

背びれは2つ



カジカ

背びれは2つ



カマツカ

背びれは1つ



ドンコとカジカはよく似ていますが、あごの出方や尻びれの幅で見分けることができます。また、ヨシノボリ類は腹びれが吸盤状です。カマツカも川底でくらしますが、形は大きく異なります。

川で気がついたこと

福岡県の淡水魚～魚を使った環境しらべ～
2019年3月 発行

編集 福岡県保健環境研究所 環境生物課
発行 福岡県環境部自然環境課